



下村 満子

副代表幹事
国際問題委員会 委員長

健康事業総合財団〔東京顕微鏡院〕 理事長

国際問題委員会に、先日、ダニエル・ピンク氏を講師にお招きした。『ハイ・コンセプト―「新しいこと」を考え出す人の時代』（三笠書房 大前研一訳）の著者である。「第三の波」と言われた情報化社会の後にくる新しい大きなうねり「第四の波」と、それに対処する生き方を示す警鐘の書として、アメリカではビジネス部門で第1位にランクされている。その本のメッセージのさわりを語ってもらったのだが、大変刺激的で面白かった。

ピンク氏の話は、人間の脳、右脳と左脳から始まった。一般に、左脳は論理的、分析的思考が特徴で、右脳は直感的、感性的、統括的機能を持つ。「情報化社会」と呼ばれる時代は、左脳機能を重用した左脳主導思考社会だったが、これからは右脳の動きを重要視した右脳主導思考が「成功のカギ」を握ることになる。ピンク氏はそう強調した。

その上で、これからのスーパー・ビジネスマンに不可欠な「6つの感性」をあげる。「デザイン」「物語」「調和」「共感」「遊びごころ」「生きがい」。これまでの商品・サービスは、機能中心

だったが、これからは「デザイン」といった感性が高い付加価値を生む。また、情報がタダ同然で手に入る時代になりつつある現代、情報を持っているだけでは無価値であり、その情報をもとに相手を説得したり、新しい世界をイメージさせる「物語」が語れる人がリーダーになる。さらに、これまでは専門職とか何かに特化することが重視されてきたが、これからは、物事の全体像をとらえ、ばらばらなものをまとめる「調和・統括力」、そして人を「共感」させる力が重要であり、加えて、ただ真面目に仕事をするだけでは評価されず、「遊びごころ」「発想の自由さ」が、キーとなる。最後に、お金のためだけでなく精神的な充足、「生きがい」を求める人が、成功者となる。キーワードは「マルチ」。

個人だけでなく、企業でも、左脳型から右脳型へ移行しないと、世界で生き残るのは難しいだろう、ということだった。日本人は、民族的に、どちらかと言えば「右脳型」だと、私は思っている。日本の未来は、そう悲観したものでもないかもしれない。

Contents

巻頭言 下村満子	左脳社会から右脳社会へ	001
特集	北城代表幹事の4年間を振り返る	002
リレートーク 高橋 温	大相撲雑感	010
委員長インタビュー	教育問題委員会 浦野光人 経済政策委員会 高橋 温	011
経済同友会最前線	教育問題委員会提言 他	013
同友会スケッチ	2007年2月の記録と2007年4月の予定	019
入・退会者紹介	2007年2月16日現在の入退会者	020
お知らせ	2007年度副代表幹事 推薦候補者の内定について	021
私の思い出写真館 山岡建夫	ロシアでの杉原千畝さん	022